

北山村

未来へつなぐ木のバトン

木の家具工房
林主直の木



神吉さんは自分の作った家具を百年作ることができればその間に文世代の木が成長すると言いました。それは今でもモノづくりの原動力となっています。

木の持つ自然の美しさを引き出し、色や質感を活かしながら、家具やインテリアのアクセントとして提供。木の持つ自然の美しさを引き出し、色や質感を活かしながら、家具やインテリアのアクセントとして提供。

家具作りでは一人一人に合うものを作るのが大切とこだわりました。木の色や模様にも工夫し、どこにもないユニークさを追求しているそうです。

後の木



北山村の観光業は筏です。

筏は約1604年から始まり、ダム建設や道路整備により1963年に途絶えましたが、その伝統や技術は1979年に復活しました。「北山川観光筏下り」へと引き継がれました。「北山村の筏流し技術は県文化財」

林業遺産に認定されています。

筏下りは昔建物をたてるためにトラックなどの輸送手段がなかったため使われていた木材を運ぶための手段だそうです。年間約7000人の人が筏下りに乗っています。



私達の身近にある筏がこんなにも古い歴史があることが知られてよかったです。

こんな大昔からこんなにも古い筏の運転ができるのがすごいと思いました。木を運ぶにあたり何日もかけてもどくのがびっくりしました。

この筏流しの技術を何百年も残していきたいです。

木を切った後、あとの木にはおぼろげに強いにおいで、

林業の歴史

- 約560年前に筏で切った木を運んでおりました。
- 大塚城の築城にも木がつかわれていたそうです。

森林率



北山村の森林は94%です。人工林は70%です。このことから北山村は産業が大セカと言わることがわかります。

人工林率



間伐しているところにしていないところを見ても、していないところは草が茂っていて、間伐の大切さが知られてよかったです。

間伐について

- 間伐された木は捨てないでバイオマス発電所に利用されています。
- 間伐とは成長するときに混んでいる木の一部を伐採することです。
- 間伐をしないから光が当たらず暗くなる。となりとりの枝や葉がふさみ、成長を止めちゃう。



間伐してないところ。間隔がせわしく暗い。



間伐しているところです。間隔が広く空が明るくなり、木も育ちやすそうです。



河川には運ばれた木材。こんなにもたくさんおとどきまきました。

じゃばらの木

- 北山村の特産品は、じゃばらです。
- 北山村の民家の庭に、みかんでもない実をつける木が一本だけありました。その木を挿し木し増やして、いったのがじゃばらの始まりです。



今では約8000本程のじゃばらの木があります。収穫したじゃばらはジャムやジュースなどに加工され販売されています。じゃばらの果汁を使ったメニューが給食にできたり、おいしく加工されています。学校の近くのじゃばら農園に、うかがい体験に行ったりもします。じゃばらを楽しむときはヘタを長くのこして切り落とします。のこった部分をていねいに切ります。じゃばらは大きさによって分けられ、いろいろなものに加工されます。学校にもじゃばらの木を植えていて実ると給食などに使われることもあります。こんなじゃばらの栽培を私たちの手で受け継ぎ、さらに発展させていけたらいいと思います。



じゃばらとは、漢字で書くと「苦楢」です。この名前由来は邪気を払うことから種まきにつけられました。

